

未来社会創造事業 探索加速型探索研究
事後評価結果

1. 領域

「超スマート社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

異分野共創型の AI・シミュレーション技術を駆使した健全な社会の構築

3. 研究開発課題名

ビックデータと AI 手法を活用する異分野共創型感染症対策支援システム・サービスの開発

4. 研究開発代表者名（機関名・役職は評価時点）

大曲 貴夫（国立国際医療研究センター国際感染症センター センター長）

5. 評価結果

評点： A（優れている）

総評：

本研究開発課題は、パンデミックを起こす感染症の発生時に、人々が適切な対策を実施するように行動変容を促すシステムを開発し、感染症に対応しながらも自身の豊かな生活を実現できる社会を目指すものである。本システムの実現により、人や社会の振る舞いを踏まえたうえで、経済・社会への影響が最小化され、人々の納得感がある対策が期待される。

探索研究において、提案方式の実現に必要な基礎技術が概ね開発され、優位性・独自性を確認できたことは評価できる。スマホアプリなど目に見える形での成果があり、それらを利用して実際のデータの分析が行えている点も評価できる。

また、実際に本手法を用いた評価が内閣官房におけるコロナ政策の策定における参考情報として使われるといった、実践的成果も得られていることも優れた成果と認められる。

今後は、行動変容に資する方策やインセンティブを用いた伝播防止行動の誘導に向けて研究開発が発展することを期待する。

以上